

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (九州)	◎	＊	＊	＊
	○	スーパー（店長）	販売量の動き	・コロナ禍での販売量の動向から判断すると、新型コロナウイルスオミクロン株の新規感染者数の高止まりにより、外出や外食が減少傾向になり自粛生活が再度増加していることから、食品関連の売上が上昇傾向にある。
	○	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・客単価の上昇傾向が続いているが、来客数の減少に歯止めが掛かっている。ただし、2年分の売上減少分を回復する段階までではない。また、以前よりイベントに対する熱も薄れてきており、必要な物だけを購入し、ぜいたく品の購入は減少している。
	○	コンビニ（店長）	来客数の動き	・前年より売上は良い。
	○	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・販売量は増えたが、販売地域の拡大に伴う一時的な販売増加である。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の市中感染を警戒しているが、来客数や客単価が戻りつつある。売上は以前より回復基調にあるが、もう少し回復の余地がある。
	□	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・バレンタインの自家需要で、2月前半の来客数は多かったが、後半に失速している。
	□	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・感染再拡大で、土日の来店や午後の来客数が減少し、感染防止対策として、物産催事の来場も減少している。一方、目的買いや交通機関の利用減少により店舗周辺での買物待ちの駐車は増え、売上の客単価や商品単価は堅調である。オンライン利用や県下のサテライトショップ、ギフトショップ利用の地元店舗購買も堅調であるが、外出自粛は継続している。
	□	スーパー（店長）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数は高止まりしているが、来客数の推移は変わらない。一方、非接触型のネットスーパーは急激に伸長しており、全体での景気は変わっていない。
	□	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が急拡大したが、新型コロナウイルスオミクロン株は重症化しないため、以前のような巣籠り需要は起こっていない。消費者もデリバリーや持ち帰り、安全な店舗での外食、インターネットでの買物をしている。
	□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス第6波により来客数は減少しているが、食品部門は内食傾向の再高まりと、相次ぐ食品値上げで、売上は前年並みに推移している。一方で衣服住部門は、コロナ禍に加えて原油価格高騰による買い控えが顕著にみられ、売上不振が続き、客単価低下の一因になっている。全体としては前年を若干下回る傾向にある。
	□	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・寒さが本格的になり、鍋商材を中心とした冬物商材が好調である。新型コロナウイルス関連では、長引くまん延防止等重点措置による内食需要や、コロナ禍慣れによる外出自粛の自己緩和等で不透明な部分が多い。
	□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加により病院は面会謝絶となり、病院内の店舗では客が激減している。売上もかなり減少し、厳しい状況が続いている。
	□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の期間延長により、人の動きが抑制されており、来客数が増加しない。
	□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・新規感染者及び濃厚接触者が拡大したため、来客数が少ない。特売告知に対する客の反応も悪い。原油等の値上げも一因である。
	□	コンビニ（店長）	販売量の動き	・売上は、店舗によりばらつきがある。
	□	衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・11月と比較すると、物の動きが鈍く、季節の変わり目で厳しい時期である。客の流れも通常どおりには戻っていない。

□	家電量販店（従業員）	来客数の動き	・来客数や売上は前年比100%である。
□	その他専門店 [コーヒー豆] (経営者)	お客様の様子	・例年12月までが繁忙期であり、1月からは売上が下がる。今月の売上も購買量は前年と変わらない状況である。
□	タクシー運転手	お客様の様子	・前年と比較すると、人や車も動き始めたが、まだまだ少ない。
□	タクシー運転手	それ以外	・まん延防止等重点措置が適用され、夜の飲食店の時短営業の影響で売上状況が悪く、今後の推移に予想が付かない。
□	通信会社（統括者）	販売量の動き	・2月の携帯電話販売台数の見込みは前年並みである。出張イベント等の開催により、来店できない客の需要に対応している。
□	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・例年より気温が低く、新型コロナウイルスオミクロン株の収束が見通せない状況であるが、天候に恵まれてきていることや客に新しい生活様式が定着しており、来場者数は順調に推移している。
□	美容室（経営者）	来客数の動き	・3か月前の11月はまん延防止等重点措置が解除されていたが、現在はそれと比較して若干良くなった程度である。
□	美容室（経営者）	販売量の動き	・2～3か月前との比較では良くはなく、寒さと感染防止のため外出も少なくなり、この業界も景気が悪い状況が継続している。客がおしゃれに関心を持つ春先までには、景気が良くなることに期待をしているが、なかなか回復に向かわない。
□	美容室（店長）	お客様の様子	・前月より売上は増加している。新型コロナウイルスオミクロン株の新規感染者数の状況で来客数が変化している。
□	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	お客様の様子	・少しずつ景気が上向くことを期待していたが、新型コロナウイルス第6波もあり、良くて現状維持である。客の受注状況、工場の操業状態も良い状況ではない。
□	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数もまだ多いが、イベント来場者数が少しずつ戻っている。
▲	商店街（代表者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスのまん延で、商店街への来客が減っているため、当店への来客数が減少している。その上に、買物に慎重であるため、購入に至る客が減少している。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・生活必需品以外の買い控えが多い。小売店や飲食店にとって、今回のまん延防止等重点措置の適用期間は、これまでの内、一番きつい状況になっている。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・当地では感染防止対策が継続されてきている。また、まん延防止等重点措置が延長され、飲酒関係等がダメージを受けており、その関係者も当商店街まで仕入れに来なくなり困っている。
▲	一般小売店 [青果]（店長）	単価の動き	・業務関係の需要がないため、1月と比較すると販売単価を下げ、加えて、客の購買意欲も上がらない。
▲	一般小売店 [鮮魚]（店員）	お客様の様子	・外出自粛が多く、買物に来ても短時間で必要最低限の購入になっている。気持ちにゆとりがなく、状況が非常に悪い。
▲	一般小売店 [茶]（販売・事務）	お客様の様子	・新型コロナウイルスオミクロン株は減少しつつあるが、大幅に減少していないため、小売店での影響は大きくなり、まだ来客数は戻っていない。新型コロナウイルスの影響で仕入価格は上昇し、更に打撃を受けている。
▲	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスによるまん延防止等重点措置が延長しているが、春は人が動く時期であり、季節の変わり目でもあるため、売上も上がる。しかし、予定の中止が前年以上に多く、外出を控えるために購入の必要がなくなる客も多い。
▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・2月はまん延防止等重点措置が適用され、人の動きは低調である。週末や祝日は外出自粛傾向で、平日はテレワークやオンライン授業による通勤通学の減少が顕著である。

▲	コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・以前に新型コロナウイルス感染が拡大したときは、夜の来客数が伸びていたが、今回の場合は昼夜共に伸び悩んでいる。
▲	衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・感染拡大と寒さのため、春物を見に来る客が少ない。
▲	家電量販店（店長）	お客様の様子	・新型コロナウイルス新規感染者数が増加した影響もあるが、来客数が前年の80%で推移しており、主要商品の単価が下落している。
▲	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスや商品力の弱さによって、来客数は減少しており、販売台数も減少している。
▲	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・メーカーの新車生産が一向に改善されず、3か月前と比べ悪化している。自動車販売店にとっては、車の供給がなければ登録ができず、売上にならないため、非常に厳しい状況が続いている。
▲	住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス第6波の影響で、都市部でのキャンペーンの来客数は少なく、低迷している。
▲	その他専門店 [書籍]（副店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数増加で、状況が悪くなっている。
▲	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター]（支配人）	来客数の動き	・3か月前の11月は中核となる店舗の改装休業があり、加えて前年流行した人気アニメやGo To Travelキャンペーンの反動から、厳しい数値になっている。一方、新型コロナウイルスの感染が落ち着き始めた年末には、消費動向も高まりつつあったが、2月の数値は11月ほど悪くないものの、まん延防止等重点措置の影響もあり、再び消費者心理として財布のひもが固くなっている。
▲	その他飲食の動向を把握できる者 [酒卸売]（経理）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大による売上の減少や物価上昇による値上げ、また、原油価格の高騰で原価費用は上昇し、景況は悪くなっている。
▲	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・稼働率が落ち込んでいる。宿泊以外の宴会や婚礼需要もなく、非常に厳しい状況が続いている。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が延長になり、急激な回復ではないものの、繁華街を中心として、売上は昼夜を問わず徐々に上向きになっている。
▲	競馬場（職員）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の長期化により、来客数の増加が見込めない。
▲	その他サービスの動向を把握できる者 [介護サービス]（管理担当）	来客数の動き	・1月に拡大した新型コロナウイルスオミクロン株の影響により、1月末キャンセルが大幅に増加しており、2月もその状況が継続している。
▲	設計事務所（代表）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響が長引いている。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の第6波の影響で、客が外出を控えている。当県では、2月の3連休に外出自粛の要請があり、また、21日からはまん延防止等重点措置は解除されたものの来客は少ない。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の延長により、来街者数が激減している。
×	商店街（代表者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染が拡大して以来、売上が最低となっている。生鮮食料品以外の近隣の異業種の店でも、売上の落ち込みが大きい。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の適用前は予想以上に来客数が多く、販売量も上がっていたが、適用後は顕著に来客数が激減している。
×	一般小売店[精肉]（店員）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置により、取引先の飲食店の大半が時短営業、若しくは休業をしている。
×	一般小売店[生花]（経営者）	販売量の動き	・3か月前と比較して景気が悪くなっている。新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、花を贈るイベントや行事が中止や延期になったため、花が消費されないことが大きな原因である。

	×	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大とまん延防止等重点措置により、来客数は大きく減少している。21日以降のまん延防止等重点措置の解除後は、徐々に来客数が回復傾向にある。
	×	百貨店（経理担当）	競争相手の様子	・今月の市内大型店4店の売上見通しは、前年比93.8%、前々年比74.8%である。3か月前の売上は、前年比96.2%、前々年比92.1%であり、比較すると2月は苦戦を強いられている。2月に入り急激に来客数が落ち込み、パレンタインの催事も不調に終わっている。
	×	コンビニ（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の影響によるまん延防止等重点措置の適用により、夜中の売上がなく、近隣でのイベントもないため来客数が少ない。
	×	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大によって、心理的に客足が鈍くなっている。
	×	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・半導体不足の影響を受け、納期が長期化していることは、客も認識として定着している。
	×	住関連専門店（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響が大きく、来客数が目に見えて大きく落ち込んでいる。また、例年以上の冷え込みも原因と考えられる。
	×	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加で、来客数が大きく減少している。新規感染者数は高止まりしており、回復に時間が掛かる。
	×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が適用され、19時以降は全く人が通らず、休業店が8割程度に増えている。外食をする店もなく、街が廃れてしまうような不安な状態である。
	×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・今月はまん延防止等重点措置が適用されたが、それまでも時短営業しており、夜の予約は入らなかった。また、ランチをしていたが、新型コロナウイルスの感染を警戒しており、売上が少なく厳しい月である。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の適用で、時短営業や酒類提供の停止要請が出され、売上は大変苦戦している。テイクアウトも行っているが、競合店が多く売上に反映できていない。
	×	スナック（経営者）	それ以外	・1月末からの新型コロナウイルスのまん延防止等重点措置で経済が止まっている。
	×	観光旅館組合（職員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株による感染拡大とまん延防止等重点措置の影響もあり、客の外出自粛が続いている。
	×	観光型ホテル（総務）	来客数の動き	・新型コロナウイルス第6波によって、まん延防止等重点措置の適用期間が3月初旬まで延長になり、夜間はもとより昼間の人の動きが鈍化している。運営するシティホテル内のレストランの来館者数は減り、宿泊客数も激減している。
	×	観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況に振り回されており、まん延防止等重点措置で最悪の状態が続いている。先が全く見通せない。
	×	旅行代理店（職員）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置の延長で、来客数や販売量共に3か月前より大幅に減少している。
	×	設計事務所（所長）	単価の動き	・建築に係る材料や製品の単価が大幅に上昇し、また、食料品、燃料費等の生活必需品も値上がりしているが、収入の上昇はない。その上、新型コロナウイルスやロシアのウクライナへの軍事侵攻の問題で先行きが見えず、今後の懸念される。
	×	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・来客数は、前月との比較で1～2割減少し、客の購入も減っている。
企業 動向 関連  (九州)	◎	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注は好調であり、追加の設備投資と人員の増加を検討中である。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体の動きが回復し、関連する電子部品も動きが出ている。新型コロナウイルスの影響で生産が鈍っているものの、受注量や取引先の動きも回復している。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体装置メーカーの機械加工部品受注が前月より増えている。

○	電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・売上は横ばいから上昇傾向であるが、原材料の価格高騰や品不足がどこまで影響するか先行き不透明である。
○	電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・半導体関連の受注が継続して好調である。
○	新聞社〔広告〕（担当者）	受注量や販売量の動き	・広告はWebを中心に売上が回復している。
○	広告代理店（役員）	受注量や販売量の動き	・客からの依頼案件、競合プレゼンテーション案件、新規客からの問合せが、若干増えている。
○	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・自社の受注件数と売上が伸びており、企業の人材投資が上向きになっている。
□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年末の景気が良く1～2月も期待していたが、1月は厳しい数字であった。2月も深刻な状況となっており、計画に対して2月の売上は80%になっている。また、大手冷食メーカーや量販店も落ち込む時期ではあるが、ここまでの厳しさは、今まで味わったことのない経験である。特に外食関係は、まん延防止等重点措置で休業している店が多く、計画に対して、50%そこそこの動きである。
□	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月の売上は下がっている。その要因として、1月のふるさと納税が前年よりも3割伸びたため、その結果2月の売上が落ちたと考えている。受注関係は、ほぼ横ばいであるが、Webでは増加傾向である。
□	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	取引先の様子	・相場は上がっているが、物の動きが停滞しており、生産が思ったほど伸びていない。
□	輸送業（従業員）	取引先の様子	・原料調達の厳しい状況は変わらない。引き合いはあるが、製造できない状況が続いており、特にプロテインの調達は予定が立たない。
□	金融業（営業）	取引先の様子	・2月は新型コロナウイルスオミクロン株が猛威を振るい、商業や興行、旅行等の広範囲の業種で低迷が続いている。この1～2年の景気は、新型コロナウイルスの感染状況次第である。
□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスオミクロン株の新規感染者数は高止まりしており、飲食店の時短営業延長も報道している。学校でも感染拡大しており、子供の自宅待機で仕事を休む人が増え、職場の人繰りに苦慮する声が多方面から上がっている。
□	経営コンサルタント（社員）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染防止で外出を自粛しており、4か月にわたりダイレクトメール作戦を実施したが、反応は1%弱と良くなかった。
□	その他サービス業〔物品リース〕（職員）	取引先の様子	・まだコロナ禍にあり、3か月前と比較しても大幅に景気が回復していない。
□	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村からの調査や計画、設計の委託業務は、年度末の時期で発注が少ない。一方で、2月に指名入札があると、工期も3月末で実施が厳しいが、予定価格の4割で落札する業者がいる。市町村の予算が新型コロナウイルス関係にまわり、委託業務が激減している。
▲	繊維工業（営業担当）	競争相手の様子	・新型コロナウイルスの影響で、従業員も休んでいる。生産にも影響が出ており、1週間程度の長い休みになるため、状況は厳しく懸念している。
▲	金属製品製造業（事業統括）	受注量や販売量の動き	・部品の納期が間に合わず、製品の納期遅延となったために、検収もずれ込み売上が延期続きとなっている。
▲	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・まん延防止等重点措置が続いており、飲食店関係の景気が悪い。飲食店に食料、飲料、おしぼり、割り箸等を卸す多数の会社があり、そちらも景気が悪い状況である。新型コロナウイルスを考慮すると、時短営業の措置は必要であるが、景気が良くなるには飲食店や観光等の回復が必要である。

	▲	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・原油高の影響により、関係協力会社からの値上げ要求がある。高騰する経費を自助努力で賄うのも限界に近い。新型コロナウイルス第6波の影響もあるが、全体的に停滞の雰囲気が漂う。
	▲	通信業（経理担当）	取引先の様子	・3か月前はまだ新型コロナウイルス変異株の影響はそれほどなかったが、現状では影響が大きい。
	▲	金融業（従業員）	取引先の様子	・新型コロナウイルスオミクロン株による新規感染者数が大幅に増加し、まん延防止等重点措置が多く地域で適用されており、回復傾向にあった百貨店等で客足が減少している。旅行業やホテル、旅館、飲食店等でもキャンセルが多く、売上は伸び悩んでいる。
	▲	金融業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスオミクロン株の新規感染者数の増加やロシアのウクライナへの軍事侵攻により、世の中の不安が国内外で発生している。また、石油等の物価高により、物の動きが止まっている。運送業や建設業も、石油等の値上がりや部品等の調達不足で受注の減少や延期が発生し、産業全体の景気が悪くなっている。
	▲	金融業（調査担当）	取引先の様子	・3か月前は新型コロナウイルス新規感染者数が低水準で安定して推移し、対人サービス業等の人流に依存する事業の正常化が進んでいた。しかし、現在はまん延防止等重点措置の適用を受けて人流が減少し、営業活動にも制約が存在する状況にある。また、半導体不足により自動車工場の稼働を一時停止する動きが続いている。
	▲	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、まん延防止等重点措置が適用され、新聞折込広告の受注量が落ち込んでいる。また、第7波も心配され、当面受注量は戻らない。
	×	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・第4四半期の発注予定が発表されたが、繰越し工事が少ない。県工事の発注はあるが、市役所も工事が非常に少ない。3年度末から4年度初めにかけての受注量減少を危惧している。
	×	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で経営が悪化しており、さらに、まん延防止等重点措置の延長で消費者の動きが停滞し、物価も上昇している。
雇用 関連 (九州)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・今月に入り、企業からの求人情合せが増加傾向にある。欠員補充に関しても、長期安定して稼働でき、かつ将来的な直接雇用切替えを見込んだ問合せも数件ある。時間や予算を掛けてでも要望に合う人材を希望する企業が増えつつある。
	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・注文数が約1割増え、新規採用する企業も増加している。また、後任の求人も多くなり、人員確保している企業も増えている。
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人数や新規求人数共に前年比での増加が続いている。また、有効求人倍率も2か月連続で前年比を上回る月が続いている。
	○	民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・3月1日から2023年3月卒の就活が本格化するため、企業の動きはそちらに移っている。今年の状況は、学生の2極化が進み、就活が進んでいるグループとそうでないグループが顕著である。原則3年生の求人公開は3月以降であるが、一部企業では既に選考が始まり内々定も出ており、全体的な景気は良くなっている。
	○	学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・内定状況は、前年比で若干良くなり、前々年との比較では少し悪くなっている。2022年卒の学生のなかで就職活動継続中の学生もまだ一部いるが、求人依頼件数も一定数あり、年間を通じた採用活動を行う企業も前々年度と比較して増えている。また、新型コロナウイルスの影響はまだ続く状況下ではあるが、2023年卒の採用においては前年採用を見送っていた企業の復活や、業種によっては大きく採用を増やす企業も出ており、求人状況は少し好転する。
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・新型コロナウイルスやロシアによるウクライナへの軍事侵攻等で、経済の先行きが不透明である。

□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・先行きに対する不安があり、まん延防止等重点措置の延長などで、消費者の防衛意識も高くなり、景気の腰折れ状態が続いている。第4四半期は年間でも求人需要が高まる時期であるが、今季は期待できない。
□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・新型コロナウイルス対策とした雇用調整助成金の影響もあり、企業のリストラや解雇が減少し、求人の状況はほぼ変わらない。
▲	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・まん延防止等重点措置の延長により、求人数の日延べ、縮小が続いている。
▲	新聞社〔求人広告〕（社員）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大で、緊急事態宣言こそ発出されていないが、経済活動が鈍化し新聞広告の量は減少傾向にある。旅行関係、宿泊関係の広告は止まっている状態である。新型コロナウイルスの感染が拡大すると、広告問合せ等の電話やメールの量が1～2割は減少している。感染が落ち着くと元に戻り、感染拡大と減少の繰り返しである。
▲	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの影響による大量離職が出始めている。雇用調整助成金の活用等で従業員の雇用維持を図り、様子を見ていた企業が、長期にわたり事業活動が立ち行かず、採算が取れないため、従業員をまとめて解雇する動きがある。
×	—	—	—